

校長室だより

共学共高

第
14
号

令和3年10月11日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

授業研究週間 part3

少し時間が経過してしまいましたが、授業研究週間の後半で参観した一部の授業について紹介したい。

【S先生の日本史B（1年7組）】

扱うテーマは「律令国家への道」である。いわゆる歴史科目では、進度の確保が課題となるので、生徒間の対話を取り入れることがためられることも少なくない。ところが、S先生は、積極的に導入している。

天武朝の政治は「皇親政治」で、大臣を置かずに、身内で政治を行うものであること、政策としては豪族を官僚化することなどが確認される。具体的には、部曲（かきべ）を廃止して、八色（やくさ）の姓（かばね）といわれる豪族に与える8種類の姓を設けた。その上で、S先生からの問いは、「有力豪族の反発を招くことなく、このような政治形態・政策が可能だったのはなぜか。」というものである。生徒たちは、ペアで考える。生徒たちからは、「お金が関係するのでは？」「都の貴族に協力してもらったのでは？」「買収したから」といった考えが出される。先生からヒントが出される。「壬申の乱がヒントになります。」つまり、近江朝廷（大友皇子）についての中央の豪族が没落したため、反発する力がなかった、ということなのだ。このあたりは大学入試や模擬試験の記述問題でも出題されるらしい。こうしたつながりに触れてあげることが大切だ。



意見交換する生徒たち

【S先生の生物基礎（1年5組）】

テーマは、「遺伝情報の分配」である。冒頭のあいさつの際に、「お願いします。」と声をそろえる生徒たちの姿が微笑ましい。S先生は、電子ボードにスライドを映しながら、「未分化の細胞では分裂が盛んで、分化すると分裂は落ち着いてくる、そして特定の形や働きをもつようになる」ことを確認する。次に、S先生からの問いは、「それでは、受精卵のすごさは何であったか、まわりと確認してください。」生徒たちは活発に意見交換を始める。S先生が複数の生徒を指名して、考えを表現させる。問いが難しいのか、自分の考えをうまく表現できない生徒もいるが、説明しようとする姿勢をもっていることが大切だ。最後に指名された生徒が「全能性」と答える。つまり、「これから何にでもなれる可能性をもっているのが受精卵」なのである。その後、受精卵がもつ遺伝情報は、体細胞分裂で複製・分配されること、すべての体細胞は受精卵と同じすべての遺伝情報をもつことが共有される。



意見交換する生徒たち

【S先生の国語総合（1年3組）】

教科書の『無痛化する社会のゆくえ』が教材である。前回の復習から始まるが、S先生は多くの問いかけをする。「無痛化の先には何があるのか。」「指示語のこれは何を指す?」「教科書の『こういう問題』に二重線を引いて、『問題』の中身を記述しなさい。」「単語「充足」「搾取」「大衆化」の意味は?」「『富の逆説』とはどういうことか?」生徒たちはそれらに答えていく。先生を中心としてクラスの複数の生徒たちとのやりとりが多い授業である。この後、生徒たち同士をつないであげるといいのにな、と私が心の中でつぶやいていると……S先生が「無痛化の問題に対して、どのように向き合っていくか。ペアで話し合いなさい。」と指示を出した。さすがである。生徒たちは、お互いに話し合いを始めた。残念ながらここで終了のチャイム。次の時間で生徒たちの話し合いの結果を聴きたいものだ。



ペアで対話する生徒たち

こうして授業研究週間が終了した。定期考査一週間前に入り、いつものように校内を巡回していると、生徒たちが机を合わせてグループになっている様子が見られた。

【N先生のコミュニケーション英語Ⅲ（3年3組）】

生徒たちは6人で一つのグループとなり、お互いに意見を出し合っている。何をしているのかなと教室内をのぞいてみると、N先生が「定期考査の範囲が終わったので、自分たちで予想問題をつくらせているのです。」と教えてくれた。なかなか面白い取組だ。生徒たちが既習範囲の中で、どこが重要なのかと理解しているかも見えてくる。どんな問題ができるのか興味深い。すでに問題が完成していて、生徒たちが創り上げた問題がそれと一致したら、と考えてしまう自分がいた。



グループで問題を考える生徒たち

授業研究週間では、1コマの授業をじっくりと参観させてもらったが、その期間も終わってしまった。やはり、生徒たちは先生たちの授業を通して鍛えられ、成長していくということを感じた。授業が学校の生命線であることは間違いない。いまは、いつものように校内巡回しながら、1クラス1クラスの授業を短時間で見ている。1学期には、そうして教室後ろの扉から授業を見てみると、気づいた生徒たちが「この人何しているのかしら？」といった様子が伺えたが、最近には私に対する視線や反応が温かくなってきたような気がする。気のせいだろうか……

(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)